

窓辺

9・11

いけの
池野 文昭
ふみあき

渡米から約半年がたった
2001年9月11日早朝、
私はワシントンの学会場に
いた。9時すぎ、突然のア
ナウンスに会場が騒然とな
った。

英語がまだ駄目だった私
には、何が起こったのか全
く分からない。9時30分す
ぎ、ポトマック川対岸の国
防総省ペンタゴンの方から
爆発音がした。学会場の外
は機関銃と迷彩服の軍人、
爆弾探知犬、装甲車でいっ
ぱい。戻ったホテルのテレ
ビで同時多発テロの発生を
知り、旅客機がニューヨーク

クだけでなく近くのペンタ
ゴンにも突入したことに恐
怖で震えあがった。

全米の空港はすべて閉
鎖、数日間ホテルに缶詰め
だった。大学から連絡を受
けて同様に身動きが取れな
い女性教授と連絡を取り、
レンタカーでとにかく西に
向かった。私はまだ米国免
許未取得にて、全行程を彼
女が運転手。お金もない私
はホテルも彼女と相部屋。
一回り以上も年配女性にて
過ちは起きなかったが、ロ
マンチックとは程遠い彼女
の研究話で盛り上がった。

何とかカリフォルニアに
たどりの着いた後、彼女から
共同研究の提案があり、恩
返しと思い一生懸命研究し
た。なんと、その研究から
心臓病薬の特許取得、彼女
が製薬ベンチャーを起業。
現在、そのベンチャーは世
界屈指の製薬会社「アムジ
エン社」の一部になってお
り、この経験が起業を彼女
の身近なものにし、世界初
となる薬の起業家育成講座
「SPARK」を創設した。
医学副部長に昇進した彼女
は、今も私を支えてくれて
いる。

9・11は、このように多
くの人の人生を変えた。
私もその一人だ。

スタンフォード大
主任研究員、医師